

かわいい まごに 小学一年

もりの すいきん

はじめに

わかばが めばえるように しょうがつこうでの せいかつが はじまった
ね。

くらいニュースばかりなので ゆめのある はなしを かいてほしい とい
うから じいじが すこしずつ かいてあげよう。

こどもの くに

こどもの くにには こつきようが ないのだよ。

こつきようは おとなが つくったものだからね。

でも たくさん の ちいきに わかれているから たくさん の しゅるいの
ことばが あるのだよ。

いまは にほん という ちいきで にほんごで かいているのだよ。

にほんごは とても むずかしいので ほかの ちいきの こどもたちが
いっしょうけんめい しゃべる にほんごを よくきいてあげようね。

おたがいに ことばを おしえあえば すぐに なかよくなれるよ。

バベルの とう

おおむかしに にんげんは てんにも とどくような とうを つくったん
だよ。

ところが かみさまの いかりに ふれて ことばを バラバラにされてし
まったんだ。

いまでも せかいの ことばは ななせん いじょうの しゅるいに わか
れているんだよ。

けんかばかりしていると かみさまの いかりに ふれて しゃべれなくな
ると いけないから きをつけようね。

エスペラントご

おなじ ことばを しゃべるように なったら べんりだとは よいところに きがついたね。

いまから ひゃくさんじゅうねんほど まえに エスペラントご という げんごが つくられたんだよ。

いろいろな げんごを しゃべる ひとたちが にばんめの げんごとして つかえるように つくられたんだよ。

そんなに おおくの ひとが つかっている わけでは なさそうだけどね。 じいじも にじゅうねんほど まえに エスペラントごの にゅうもんしよ を かって べんきょうしてみただけ もう すっかり わすれてしまった。 また べんきょうしてみる ことに したよ。

ゆめ

ゆめのある はなしを かいてほしい ということで はじめたのだが べんきょうの はなしになってしまったので ゆめについて かいてみようね。

ゆめは かなえるために みるものなのだよ。

「あきらめなければ ゆめは かなう」といった ひともあるね。

たしかに かなえるために もくひょうを たてるといいね。

ゆっくりでいいから あきらめずに もくひょうに むかっていけば ゆめは かなうはずだよ。

へいわ

せんそうのない へいわな よのなかになるような しごとが したい という りっぱな ゆめを もっているとは うれしいね。

こどもの くには こっきょうが ないので なかよくしていれば へいわになれるはずだよ。

そのまま おとなになれば へいわなままなのにね。 こどものくには ぼうりよくを つかわないように きめられるといいね。

おとなの
くに

こどもの くにには ちゅうがっこうを そつぎょうするまで すめるのだ
よ。

そのあと すこしずつ おとなのくにに うつつていくのだよ。

おとなの くにには こつきょうが あるので わたしたちは にほん
と

いう くにに すんでいることになるね。

こどもの くにで なかよくなった ほかの ちいきの こどもたちは ほ
かの くにの おとなたちに なっていくんだ。

さんねんだが おとなたちで せんそうを したりするから こどもたちに
かなしい おもいを させてしまうね。

こころある おとなたちは ないているのだよ。

すまない すまないと ないているのだよ。

でも なんとかして へいわな せかいにしたい。

それが いいじの ゆめなのだよ。